

県人会担い手育成青年派遣事業

令和元年度

海外福岡県人会青年派遣プログラム報告書



(公財) 福岡県国際交流センター

# 目次

---

|                              | Page |
|------------------------------|------|
| 事業概要 . . . . .               | 01   |
| 派遣団員名簿 . . . . .             | 02   |
| 派遣スケジュール . . . . .           | 03   |
| 報告書                          |      |
| 平田 愛華 (福岡女学院大学 2年) . . . . . | 04   |
| 雪浦 梓希 (福岡大学 2年) . . . . .    | 06   |
| 竹下 はるか (九州大学 4年) . . . . .   | 08   |
| 澤村 美佳 (dois lagos) . . . . . | 16   |
| 写真アルバム . . . . .             | 18   |

# 事業概要

## 1 目的

福岡県内に居住する青年が、福岡県出身者が移住した国を訪問し、海外で活躍している移住者やその子弟等との交流、フロンティアに挑んだ先人の歴史、現地の産業や社会情勢への理解を通じて、海外に広く目を向け国際感覚を身に付けるとともに、現地とのネットワークを構築する。

## 2 概要

|      |   |
|------|---|
| 訪問先  | コロンビア共和国カリ市   |
| 派遣期間 | 令和2年2月20日（木）～2月28日（金）   |
| 人員   | 4名  |
| 参加資格 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 日本国籍を有する福岡県内居住者で、派遣時において、原則として18歳以上30歳未満の者（高校在学中の者を除く）</li><li>● 国際交流に強い関心を持ち、協調性に富み、団体生活に適應でき、心身ともに健康で、派遣に十分耐え得ると認められる者</li><li>● 事前研修など派遣前後に実施するすべてのプログラムに参加できる者</li><li>● 在籍する団体（勤務先・学校）の理解と承諾が得られる者（申込み時点で20歳未満の者は、保護者の同意が必要）</li><li>● 過去において、当該事業による派遣を受けていない者</li><li>● 派遣終了後、福岡県または（公財）福岡県国際交流センターが実施する事業等への積極的な参加が見込めると認められること</li></ul> |
| 主催   | 福岡県   |
| 実施   | 公益財団法人福岡県国際交流センター   |

## 3 研修内容

### ① 事前研修【1月26日、2月15日】

- ・ 事業の趣旨、目的の理解、自己紹介
- ・ 昨年度派遣者による体験報告、海外における安全管理について
- ・ 参加目標発表、福岡県とコロンビアの概要理解 他

### ② 現地研修【2月20日～2月28日】

- ・ コロンビア福岡県人会員宅等でのホームステイ、コロンビア日系人協会や、県人会主催イベントへの参加などを通じた交流
- ・ 商工会議所、ハベリアナ大学などの訪問
- ・ サトウキビ栽培地、コーヒー農園などの視察
- ・ 移住の歴史やフロンティアに挑んだ先人についての学習 他

# 派遣団員名簿

| 氏名   |        | 所属                              |
|------|--------|---------------------------------|
| 団長   | 家守 由紀子 | 公益財団法人福岡県国際交流センター<br>事務局長       |
| 派遣団員 | 平田 愛華  | 福岡女学院大学<br>国際キャリア学部 国際キャリア学科 2年 |
|      | 雪浦 梓希  | 福岡大学<br>経済学部 産業経済学科 2年          |
|      | 竹下 はるか | 九州大学<br>農学部 環境工学分野 4年           |
|      | 澤村 美佳  | dois lagos                      |
| 事務局  | 風見 亜衣  | 公益財団法人福岡県国際交流センター<br>企画交流部      |

# 派遣スケジュール

令和元（2020）年2月20日（木）～2月28日（金） 6泊9日

|   | 日程          | 時間       | 内容  | 宿泊              |
|---|-------------|----------|---|-----------------|
| 1 | 2/20<br>（木） | 朝<br>夜   | 福岡出発<br>コロンビア到着   | 県人会員宅<br>ホームステイ |
| 2 | 2/21<br>（金） | 午前<br>午後 | オリエンテーション<br>黄金博物館とアルケオロジカル博物館見学<br>カリ市内シティツアー<br>カリマ湖訪問    | カリマ湖            |
| 3 | 2/22<br>（土） | 午前<br>午後 | カリマ湖滞在<br>天皇の誕生日祝い参加<br>（コロンビア日系人協会主催）<br>県人会青年部との交流（サルサ体験） | 県人会員宅<br>ホームステイ |
| 4 | 2/23<br>（日） | 午前<br>午後 | サトウキビ栽培地視察<br>県人会主催昼食会<br>県人会青年部との交流（乗馬体験）                  | 県人会員宅<br>ホームステイ |
| 5 | 2/24<br>（月） | 午前<br>午後 | 商工会議所訪問<br>ハベリアナ大学訪問<br>コーヒー農園視察                            | 県人会員宅<br>ホームステイ |
| 6 | 2/25<br>（火） | 午前<br>午後 | パライス農園見学<br>砂糖工場（Manuelita）視察<br>JICA 主催 写真展覧会「故郷」参加        | 県人会員宅<br>ホームステイ |
| 7 | 2/26<br>（水） | 午前<br>午後 | 県人会高齢者との交流<br>県人会主催送別会<br>コロンビア出発                           | （夕方空港へ）         |
| 8 | 2/27<br>（木） | 終日       | 移動  | 機内              |
| 9 | 2/28<br>（金） | 夜        | 福岡空港到着  |                 |

コロンビア行ってみたらこんなところでした。



ひらた まなか  
平田 愛華

(福岡女学院大学 国際キャリア学部 国際キャリア学科 2年)

海外福岡県人会 青年派遣プログラムコロンビア派遣に参加して、私は初めて“日系”と呼ばれる方々にお会いしました。長旅を経て、コロンビアのカリの空港に降り立ち、出口でコロンビア福岡県人会の方々と初めて顔を合わせた時、このコロナウイルスが流行している時期に、そして感染者数が多い日本からきた私たちを、本当は受け入れたくないと思っていらっしゃるのではないかと、少し不安に感じていたことも忘れるぐらい、素敵な笑顔で迎えてくださった時の県人会の方々のことを今でも鮮明に覚えています。そして、日系の方とお会いした最初の印象は、県人会会長のディエゴさんと初めてお会いした朝、縁側で緑茶を飲んでいそうなおじさんが、日本語が片言だったりハグをして挨拶する姿が不思議で、そのギャップに少し驚き、理解をするのに少し時間がかかりました。その日は、昨夜のフライトでロストバゲージしてしまった為、朝一番でホストファミリーのアンドレスさんにショッピングモールに連れて行っていただき、下着など必要なものを購入しました。コロンビアの方々の日常生活が知りたかった私にとって、着いた翌日からコロンビアのスーパーに行くことができ、見るもの全てがとても興味深かったです。特に印象的だったのは、エレベーターの中に椅子を置いて店員さんが座っていたので、「この店員さんは何のためにこうしているのですか？」と尋ねると、「万引き防止」と教えてくださったことです。エレベーターの中にまで店員さんを配置して万引き防止をしていることに驚くとともに、そこまでなくてはいけない理由があるんだなぁと感じました。

3日目の夜、サルサレッスンをしていただき、実際にサルサバーへ連れて行っていただきました。最初は少し怖かったのですが、とても賑やかで、日本のクラブとは違って、皆さんサルサを踊ることを楽しみに集まっているんだなぁと感じました。サルサはリズムの取り方が難しく、決まった曲に決まった振りがついているのではなく、いくつかのステップで自由に踊るものらしく、なんで初めて踊る人と合わせて踊ることができるのだろう、と思っていましたが、実際、上手な方と踊ってみて、2人で曲に合わせて踊れる理由が少し分かったような気がしました。言葉では何とも説明ができませんが、サルサはくせになります。まさかサルサにこんなに夢中になるとは思っていなかったのですが、早速近々天神のサルサバーに、今回一緒に参加した方とコロンビアの県費留学生と行く予定です。

そして、私はコロンビア派遣に参加する前、日系の方々は、コロンビアで生まれ育っている方がほとんどのようだけど、顔が日本人のような自分を、また日本のことをどう認識されているのだろう、と思っていました。実際に交流した日系の方々は、海苔や梅干しが好きな方が多く、また同年代の日系の方のインスタを見ると、日本に行った時の写真をたくさん載せていて、日本に興味があって、そして、JICAの写真展で着物や浴衣を着ているみなさんを見て、日本人の血を受け継いでいることを大事にしているなと感じました。

なんと言っても、日本からコロンビアへ移住されたお年寄りの方々のお話を聞いたことが、このコロンビア研修の中で一番よかったです。今では考えられない、写真結婚、いくら両親が決めたとはいっても、一枚の写真でこれからの人生を決める決断を、しかも18歳でするなんて私には想像もできなかったです。ピピアナさんは18才でコロンビアに移住されて、二十歳で子供を産んで、子供を異国の地で育てていくのは、大変という言葉では表せないぐらいご苦労をされたと思いますが、私たちにお話をしてくださる時、どの話を聞きたい〜?となんだか昔の話を少し楽しそうに話されている姿をみて、カッコいいと感じました。日本で安全に生活しているとちょっとしたことも危険に感じてやらなかったり、危険なことがきそうだなと思って避けたりしてしまいます。若い時に日本の裏側に移り住んで、子供を産み、毎日現地の方と仕事をして、たくさん危険なことを乗り越えてこられた方々が、今はとても生き生きと元気にコロンビアで生きていらっしゃるのを知って、ほんとうに人生死ぬこと以外はかすり傷だな、ちょっとしたことに怖気づいて、怠けて過ごしてしまう私がばからしく思えました。お年寄りの方から、日本語で会話が出来て嬉しい、と何度もおっしゃっていただけ、そう言っていたただけで、心からこの研修に参加してよかった、この方達に会いに来て、お話が聞けて本当によかったなあと思いました。

福岡県人会の日系の方々は大きな家族のようでチームのようで、誰が誰の子供か分からなくなるくらい、どこを切り取っても家族のようで、そのような関係がなんだかとても羨ましく、それと同時に嬉しい気持ちになります。

私はコロンビアを訪れて、コロンビアの気候、人の温かさ、明るさ、陽気さ、そして適度なルーズさに惹かれました。今回の派遣では、とても守られた環境でコロンビアの良いところばかりを見せていただいたように感じます。大学卒業後、日本語センター光園で日本語教師をさせていただきながらコロンビアの力りで生活をし、もっともっと深いところを知ることが私の夢になりました。このような時期に私たちを受け入れてくださった、コロンビア福岡県人会の方々に感謝です。そして、9日間一緒に過ごしたプログラムの仲間である、はるかさん、しずきちゃん、みかさん、皆さんそれぞれが目的を持っていてモチベーションが高くて刺激になりました。家守さん、風見さん、出発前から色々な準備などお世話になりました。また今からたくさん、色々なところで色々なことを吸収して、いつか恩返しができるような大人になれるように頑張ります。

## 研修を終えて



ゆきうら しすき  
雪浦 梓希

(福岡大学 経済学部 産業経済学科 2年)

私がコロンビアに着いてから後悔したことは、体力と語学力です。私は体力がなさすぎて、説明を聞いていても頭に入らない時があったり、折角ホームステイをしているのに、疲れて気付いたら寝てしまったりと、自身の圧倒的な体力の無さを感じました。また語学力については、スペイン語はもちろんのこと、英語が思った以上に話せず、もっと勉強しておけばよかったと後悔しました。そして、私のホームステイ先では日本語よりも英語とスペイン語が主に話されていたので、英語がままならない私にとってはコミュニケーションをとるのが大変でした。ホームステイ先でお世話になっている間は、一緒にホームステイをしている子に通訳してもらったり、ホームステイ先の娘さんが少し日本語を話せたのでスペイン語に通訳してもらったり、Google 翻訳を使用したりと工夫をしながらも、伝えることの難しさを感じました。

私は、怖がらず楽しむことを主な目標としていましたが、今回が初の海外だったということもあり初めは若干ホームシックでした。そして「怖がらず楽しむ」という目標を掲げながらも、私自身がとても小心者なので、日本人への差別があるのか、物を取られないかなどマイナスなことばかり考えてしまい、初めは本当に不安でした。しかし出会う人皆、いつも笑顔で優しく迎えてくださり、お陰で私自身楽しくて最後の日、帰りたくないと思うぐらいにまでなりました。もう1つの目標である、「積極性を持って行動する」という目標が達成できたかを考えた時、目の前のことに必死で受け身になっており、この目標を達成することはできなかったと感じました。

私はコロンビアに行って驚いたことが3つあります。1つ目は銃についてです。私は外国＝銃を持っているという認識だったので、コロンビアでも銃を持つ人が多いと思っていました。しかし銃を所持するにも免許が必要で合格することがとても難しい為、銃を持つ人がほぼいないということを聞き、銃の免許があること自体に衝撃を受けました。2つ目はサトウキビ農園で働く人についてです。働く人は皆、黒人の方々に1日10時間も働くのに約12ドルしか貰えないことや、肉体労働ではあるが中には女性の労働者もいるということでした。街で買い物をした時も黒人の方は少なく、人種による貧富の差を感じました。3つ目はカリ市内では車の使用が曜日や時間帯ごとに制限されることについてです。交通量が多い為の対策なのですが、ナンバープレートの番号や記号が当てはまった場合は車が使えず、破った場合は罰金が課せられるということを聞き驚きました。また、私は日本での生活しか知らずに生きてきた為、街から外れるとバス停がないことやヒッチハイクをする人、バイクは2人乗りが当たり前なことなど、日本とは違って新鮮に思えました。また、日本とコロンビアで生活スタイルが全く異なる中でも、日本のメーカーの車が至るところで走っていたり、日本の学校と同じように制服があったりと少し日本



と似ている所があると感じました。

私は、商工会議所でのお話で、コロンビアも日本と同じでまだまだ女性の地位が低く、女性は中々働き口が決まらないと聞き、改めて世界全体で女性の地位は低いということを実感しました。一方で、コロンビアでは女性の方が企業を立ち上げる割合が多いと聞いた時、日本よりも女性の進出は進んでいると思いました。

私は移住者一世の方達のお話を聞いた時、印象に感じたことが幾つかあります。その内の1つは、日本からコロンビアに来て日本に帰りたいたいと思っただけでなく、どの方も答えられたことです。私は、その方々は若い時に写真結婚でコロンビアに行った為、日本に帰りたいたいと思うのではと思っていました。しかしお話を聞いていると、子供ができて日々忙しい中で生きてきた為考えたことがなかったと仰っており、それだけ苦労されてきたのだと感じました。またキクタケさんのお話で、従業員の方達に給料をあげる為に、身分証明書を作り読み書きを教えている中で初めは色々反発があったそうです。しかし、偶然街で以前キクタケさんの農園で働いていた人に会ったときに、読み書きを教えてもらったお陰で今トラックの運転手として仕事をし、生計を立てていけると感謝されたというお話を聞いて感動しました。お話の中で、働いていた人の中には豆を盗んだり鶏を殺して盗ったりする人がいたと仰っており、私だったらいくら働いてもらう為とはいえ、根気強く読み書きを教えることはできないと思いました。私は、キクタケさんが従業員の方達に対して労働者としてだけでなく、人として接していたからこそ感謝されたのではと思いました。こうした一世の方達は、農業のことやスペイン語の習得など本当に苦労されてきたことが分かり、私は、今回体験したことを自分の中だけで終わりにするのではなく、周囲の人に伝えていきたいと改めて思いました。どうやって伝えていくかを考えた時、今はまだ模索中ですが、Twitter やブログなどで写真と共にあげて知ってもらう方法が1番かなと思いました。

私は、この研修中も研修を終えてからも語学力不足だと感じ、まずはこれからもっと語学を勉強しなければいけないと思いました。そして今回の研修を振り返ったとき、自身の短所について見つめ直すことができ、これから意識して直していこうと思いました。また日頃はあまり気付かなかったのですが、この研修で色々な人に助けられ支えられていると実感し、親や親しい人にもっと感謝しなければいけないと思いました。

## コロンビアと日本人



### たけした 竹下はるか

(九州大学 農学部 環境工学分野 4年)

### ○目標達成

コロンビア派遣前に私が設定した4つの目標は次の通りである。1つ目は、コロンビアの魅力を全身全霊で楽しみ、帰国後周りの人にコロンビアの魅力を伝え、実際に行ってみたいと思ってもらえるようにすること、2つ目は産業の中でも特に農業について日本との関係性を知ること、3つ目は、特に日本からの移民の歴史について知ること、4つ目は、福岡県や日本について、特に農産物に関して現地のの方々に紹介することであった。コロンビア派遣を経て、各目標についての達成度合いを自己評価する。

#### 1) コロンビアの魅力

現地に到着する前は治安に不安があったが、限られた時間の中でコロンビア福岡県人会の方の準備と同行のもと、コロンビア・カリ市を満喫できた。コロンビアの魅力のうち食、産業、文化、コロンビアや移民の歴史の4つについて、焦点を当てて訪問先・現地で交流する方へ質問し知見を拡げた。

#### <食>

カリでは主に朝食をホストファミリーと、昼食や夕食を派遣者と案内役の倉富ディエゴさん、ウーゴさんといただいた。

朝食は、基本的にパン、パンケーキ、アレパというおやきの3つのうちいずれかとフルーツ、チーズ、オレンジジュースとコーヒーを飲むことが多かった。日によって卵焼きがあった。コロンビアの学生の朝は早く、滞在先の高校生タミが5時ごろに出かけるときはシリアルも食べるらしい。パンはチーズやユカイモ、コーンを用いた、柔らかさと弾力を兼ね備えたアルモハウナ、パンデウノ、パンデボノなどのパンがある。南国の名にふさわしく、数種のマンゴー、パパイヤ、パイナップル、グァバに加え、マンゴスチン、ウチュワ、グラナチージャなど多種多様なフルーツを食した。ホストファザーのロドリゴさんによると、朝食べたフルーツをジュースにしてランチ代わりに飲むこともあるようだ。パンケーキは日本で食されるパンケーキと変わらないが、コーヒーやパッションフルーツを用いたジャムにコロンビアらしさを感じた。アレパはトウモロコシの粉にチーズを混ぜてさらにチーズを挟んだり加えたりと色々な形で焼いたもので、食感は少しパサついている。オレンジジュースは毎日オレンジから絞って作っている。コロンビアのスクランブルエッグは日本の卵焼きに似ており、自分で塩で味付けして食べる。コロンビアではお手伝いの人を家に置いている家庭が多いとのことであったが、田中さん宅では日系人ということもあってか、奥さんのパトリシアさんが料理などの家事をすることである。

昼食と夕食をまとめて紹介していく。飲み物として代表的なのがルラーダというジュースである。ル

口というホオズキのような見た目の植物の中身を取り出し、ミキサーでかき混ぜたもので、個体部分が7割から8割ほど残っているため、スプーンで中身をすくいながら、飲む、というより食べるという感覚である。味は甘酸っぱく、フルーツトマトのような味である。他には、青マンゴーを使ったマンゴーピーチェのレモネードや、とうもろこしを用いたチャンプス、お湯で溶かした黒砂糖をフラッペにしたアグアペネラ・フラッペなどの飲み物があり、ライムを絞ることで味と食感の変化を楽しむことができる。

コロンビアの食べ物は塩での味付けが基本のようで、メキシコに似た料理を除いてほとんど辛くない。エンパナーダというトウモロコシの粉で作った餃子のような料理は、前菜やおやつのように食されているが、意外と量がある。コロンビアの代表とも言える料理であろう。他にもチーズを潰したバナナで包んで丸く揚げたものや、プラタノから作ったチップスと付け合わせのサルサやトマトソースがメイン料理の前に出てきたりした。原住民の料理から発展した、鶏肉とジャガイモ、原産品種のトウモロコシを用いたコロンビアの代表的なシチューであるアヒアコや、似た料理で南米全土の伝統的なスープのサンコチョ、付け合わせに塩気のある米のみのピラフ、セロリが特徴的な風味のサラダ、バナナに似たプラタノを揚げて潰してまた揚げたもの、アボカドにお好みで塩を振ったものと一緒に食べる。他には、中南米の料理の魚介マリネ、セビーチェやその他肉や魚をグリルで焼いた料理など様々あった。デザートではモツァレラチーズにココナッツのキャラメル、いちじくのコンポートが乗ったコンビナードが印象的だった。

そのほか、露店で数多く売られているチョンタドゥーロは、蒸し栗やカボチャの煮物のような食感であった。塩をかけて食べるのだが、好みが大きく分かれるようで、カリの人だけ好むとも言われていた。スナックには、青もしくは熟れたバナナのチップスや、グアバの果汁から作ったソフトキャンディー、ポカディージョ、さらにはユカイモから作ったスナックなど様々あった。

後に訪れた、アルメラ市場では朝食で見るとよりさらに多くの種類の食べ物がならんでおり、県人会の方が育てている果物も出荷されているとのことだった。

### <産業>

産業について考える機会が、カリ市の商工会議所訪問時にあった。短い時間でコロンビア・カリの産業について把握するには及ばないが、商工会議所で働くアレハンドさんのプレゼンテーションとディエゴさんと商工会議所で働く奥さんのクララさんから、企業支援、特に女性の起業支援について学んだことを共有したい。私たちが訪れた商工会議所は政府から7割、加盟企業から3割の出資を受け、設立された組織である。コロンビアの産業である建設、バイオ、ファッション、コスメ、デジタル、菓子、観光などの企業を支援している。イノベーションを起こし、マインドセットを変化させ、人々の知識を改善するという目的のため、商工会議所が持つネットワークを駆使して、0～5年目の企業への技術的な支援から、5～10年目の企業への再投資、10年目以降の企業の戦略的な運営に至るまで支援する。

印象的だったのが、起業する理由が日本とは異なることである。私は、日本での起業とは何か社会的な目的を達成するための行為であるという印象を持っていた。しかし、コロンビアでは雇用がないために自分で仕事を作るしかないというような消極的な理由で起業する人が多い。男性よりも女性の方が雇用されにくいようで、特にシングルマザーなどが、小売などの保守的な事業を始める場合が多いようである。雇用機会の欠乏が起業に繋がることは『貧乏人の経済学』（A・V・バナジー、E・デッフロ著）で説明されている。商工会議所では、女性への起業支援を行っており、女性が代表を務める声優タレント会社などが生まれている他、宗教や民族などあらゆる観点から雇用機会を公平化することに力を入れ

ている。

### <文化>

滞在初日に、黄金博物館とアルケオロジカル博物館を訪問した。どちらの博物館でも、ガイドの方の丁寧な説明により、理解が深まった。黄金博物館では、金で作られたマスクやネックレス、コカを摂取するための小壺、置物などが年代ごとにまとめられていた。マスクは集落のリーダーが儀式を行う際につけるもので、太陽と人間の仲介をする動物と考えられていたジャガーを模したものである。ネックレスは、親指サイズの人形をいくつも横に連ねた形をしており、個々の人形は儀式のときに豊作を祈願してバスケットを背負った人を表している。コカ用の壺は葉を潰すための棒と対になっており、それぞれ女と男の繁殖器を指している。コカには栄養が多いと考えられ、栄養剤のような役割をしていたらしい。展示室には装飾をまとったリーダーの像がある。輪状の金の装飾を耳に入れ、耳を大きくするのは、民の声をよく聞く良い指導者であることを表しているということを知り、昔の文明でも民主主義的な考え方が用いられていることが嬉しく思った。また、年代による文明ごとに展示されている中で、戦争があった時期は装飾が簡易になっているということを知り、芸術には心身ともに余裕が必要なのだと思う。

アルケオロジカル博物館、つまり考古学博物館はカリ市の文化財に指定されていた。もとは修道女の居住施設で、教会と隣接しており、建物の外観も内装も木の梁が見えている天井以外は真っ白である。白い部分は草、土、石などを混ぜて作られている。現在の入り口の前にもともと教室があったそうだが、コンクリート製であったために、文化財登録時に取り壊された。展示からは、カリの周りには非常に多様な文明があったことがわかる。それらが6の大まかなものに分けられていた。展示品は土製の壺や人形が多く、それらは古代コロンビア人が体を表現することによって、成人、性、病気、動物と人間の境界など様々なことを定義していたことを表している。例えば、父が子を抱いていることを表したと見られる像では父親の足部分の間隙から、棒に見たてた男性器が見えるように設計されている。黄金博物館で見られたように、ジャガーのお面を被った人の人形もあったほか、アルマジロやハチドリを形作った置物やオカリナもあった。小さいオカリナはメキシコで見たものに良く似ていたが、彩色が落ちてしまったのか、赤茶の土の色に明暗が認識できるくらいであった。

黄金博物館、アルケオロジカル博物館それぞれで閲覧した造形された人の顔のデザインが、今まで見てきた博物館の展示品の中で初めて、好みであった。それは展示品がどことなく愛嬌のある、もしくは間抜けな顔をしていると同時に、目が細く日本人に馴染みのある要素を持っていたり、鼻が高かったりという理想の顔立ちに近いからなのかもしれない。

### <コロンビアや移民の歴史>

(スペイン統治・宗教)

コロンビアはスペインが統治していた時代があること、また1991年までカトリックが国教であったこともあり、いたるところで影響が垣間見えた。日本人のコロンビア移民のきっかけになった小説の主人公マリアはもともとのコダヤ教からコロンビアに来る時に条件としてカトリックへの改宗が行われていたり、道路の横に交通事故で亡くなった人のために建てられているのが十字架であったり、ホームステイ先のお宅の玄関のドアにはキリストの写真が飾られていたりした。もちろん町のあちこちに教会、プラザ、役所のセットがあったのはメキシコと同じであった。教会の装飾はメキシコよりも控えめで、ほとんどないと言ってもよいくらいであった。また、特異な例なのかもしれないが、今回訪問したハベリアナ大学も、日系人の子供たちが通っている二言語高校や大学もカトリックだった。自分はコロ

ンビアという普段住んでいない国に行ったからこそ、違いを感じたけれども、それがコロンビアの人たちにとっての当たり前で、逆に日本に来たら仏教または神道ぽいと感じることが多いのか、もしくは現代の例に漏れず、宗教らしさを感じないのか、今度日系の子に聞いてみようと思う。

（現在の移民）

初日の朝、ホームステイ先から集合場所まで送ってもらうときに、道路脇でベネズエラからの難民が新聞を配っていた。コロンビアは南米の国の中では唯一、ベネズエラからの受け入れを許可しているらしい。実際、カリマ湖に行く道すがら、道路脇でいくつかの荷物を持って、車に話しかけている若い男の子3人組を見かけた。彼らは仕事を探していると県人会の方がおっしゃっていた。

＜その他、安全性や今後について＞

今回は県人会の方の車で移動をしていたので、危険を感じることはなかった。しかし、夜にはスラム街のような通りでボヤが起っていたこともあったので、個人で行く時は危険な地域に近付かないように十分注意する必要がある。さらには、今コロナウイルスが流行していることもあり、道端でからかわれることもあったため、出発前、滞在中ともに、カリの情勢に加え、世界的情勢も十分に確認する必要がある。

カリ滞在中に食べ物のレシピについて聞くことはできなかったので、県人会の方に訊ねて再現してみようと思う。また、コロンビアの先住民とスペインの関係、コロンビアと移民そして独立、現在までの歴史については準備が足りず理解を深めきれないところもあったので、本をあらためて読み、疑問を県人会の方に聞いてみることで、知っていきたい。また、現地で体験したサルサについては、サルサーに他のコロンビア派遣メンバーやコロンビアからの県費留学生と訪れて、練習した。今後も友人を連れて定期的に訪れる予定である。

## 2) コロンビア農業と日本

コーヒー、サトウキビ栽培について、コロンビアでの生産状況、世界でのシェアについては聞きそびれたが、日系人と現地農業との歴史、関わりについては聞くことができた。

＜日本からの移住＞

そもそも、日本からコロンビアへの移民は、南米の他の国と異なり、鉱夫ではなく農民として移住することを前提としていた。すでに、他の県からの移住者が他の国に多かったため福岡での募集が中心になった。また、土地付きの移住価格であったために、他の国よりも費用が高かったということであった。もともと米を生産する予定が、気候と土地が合わず失敗し、数々の試行錯誤を経て豆やトウモロコシへと落ち着いたらしい。現在は、サトウキビの方がより条件に合うため、作物を変更した人も増えている。県人会会員の方によると、今は農業に従事している人が半数、弁護士や医者・事業家など他の職業が半数ということである。今の日系人の方の生活は非常に恵まれていると感じた。農業に関して言えば、大規模農業の経営者であるためである。後に詳しく記すが、それも入植した祖先の方の勤勉さと忍耐力のお陰なのだと感じた。

＜サトウキビ＞

3日目に、ホームステイ先の田中ロドリゴさんのサトウキビ農場にお邪魔した。それまでに、車で移動する際にも、広大なサトウキビ農場を何度も目にしていたのだが、実際に農場に入ると、どのように

管理しているのか見当もつかないほど広大だった。大規模農場であるが、全てが機械で制御されているのかと言われればそうではなく、灌漑のために使われているパイプを移動するのは人力であったり、収穫は労働者が行っていたりした。労働者は農場ではなく、砂糖工場に雇用されているらしく、収穫量に応じて12ドルほどの日給を得られるらしい。労働者の雇用は砂糖工場が行っており、労働組合のストライキの発生を受けて、収穫の機械化が進んでいる現状もあるようである。

ディエゴさんの話によると、1haあたり120tのサトウキビが収穫でき、そのうち10%つまり12tの砂糖が精製される。多雨の場合は食物量は上がり1haあたり130tになるが、精製量が9%に落ちるらしい。砂糖の価格は世界の経済状況に支配されるとのことであったが、変動度合いを聞きそびれたので、聞いてみようと思う。

農薬や化成肥料について、聞いてみたかったが、自分が日本で目にした農場との規模の違いに、尋ねることさえおこがましく思ってしまった。しかし、保水のために竹炭を土壌に混ぜ込む方法が研究されていることを伝えると、興味を持ってもらえそうだったので、改めて調べて共有したいと思う。コロンビアには多種の竹が生えているので、実際に効果があるのであれば、素材を現地調達できて、非常に有効である。

多くの労働者が働いている中で、私たちがランチパーティーをしているのは、振り返ってみると、少し不思議な状況だと思う。しかし、世界中のどこでもいつでも起こっている話なのである。そして自分も起こしている現象なのである。貧困も環境も、まだ多くの解決されるべきことがあると感じた。ディエゴさん、あきらさん、メリッサさんなど、多くの日系人の方が農業経営に従事されていた。彼らが農業にどんな将来性を描いているのか、改めて聞いてみたいと思う。

### <コーヒー>

今回訪れたのは、山道を30分ほど車で登ったところに、ご夫婦で農場を開かれた有機コーヒー農園であり、世の中の大規模なコーヒー農園の経営方法とは異なったのだが、有機農法ならではの工夫が見られて面白かった。コーヒーチェリーを入れたコンポストを他の農作物に利用したり、ニスペロという木をコーヒーの間に育てることで、日陰を作ったり、高地で生育するためにコーヒーに対する害虫がいなかったりした。始めた理由や販売先などについても詳しく聞いてみたかったが、聞きそびれた。

### 3) 移民と経済の関係

コロンビアに福岡からの移民が多い理由についてはすでに言及したが、それぞれ移住者の境遇は少し異なっていた。最終日の朝に、県人会の高齢女性の方たちにそれぞれのご経験を聞く機会があった。みなさん生まれは日本で、もともと入植していた日本人男性と見合い写真で結婚して、お嫁に来たという方、幼馴染が大使館に勤めていたため、戦時中に日本に帰って来たときに結婚して、一緒にコロンビアに戻ってきたという方、祖父と暮らすために移住する両親に連れられて来たという方、育ての親の祖母の頼みで来たという方など様々であった。苦労話も人それぞれで、何度もゲリラからの襲撃に遭い、死ぬ思いをしたり、耕作用具がすべて取られて何もできなくなったり、はたまた、収穫物や農場のさまざまなものをくすねようとする労働者と一進一退の攻防をとり、最終的には文字を教えることで、労働者の就職に繋がり感謝されたり様々に経験されているようだった。ゲリラには近所の知り合いや警察が関与している事例もあり、調査しようとするさらには危険な目に遭う可能性があるために、どうしようもなかったらしい。現在も強盗は発生するらしく、実行するのは貧しい人だけではないらしい。

第二次世界大戦時の話はあまり聞けなかった。日本人コミュニティのリーダーがホテルに隔離され、

終結後、解放時にホテル代を支払ったということだった。実際に家族はどのような生活をしていたのか、聞いてみたい。

#### 4) 福岡や日本についての紹介

滞在中は、料理を作る余裕がなかったので、日本で手に入るインスタントの味噌汁、カレーや寿司、米などを持って行けばよかったと思った。他の派遣生が、昭和の遊び道具などや地元の特産品を持って行って上手く交流していたので、次は自分も参考にして色々持って行きたいと思う。

### ○その他

- ・研修に参加した結果、自分の意識がどのように変わったか

実際に、現地の色々な年代や背景の人と交流するのに、英語だけでは不十分だと感じた。自分と同じ年代の多くの学生は英語が使えたが、経験を積んできた親世代になると、英語だけでは十分にコミュニケーションが取れなかった。その言語が十分にできなくても、少なくとも日常会話を半年前くらいから、その言語を母国語としている子と話している必要があると感じた。また、聞きたい質問を翻訳してもらっておくとよいと思った。

- ・印象に残ったこと、気付いたこと、困ったこと

今回は、ウーゴさん、ディエゴさんがすべての場所で日本語で解説をしてくださり、博物館や工場ではガイドの方が説明してくださったことで、非常に理解が深まった。日本や他の場所でも、ガイドの人に博物館や美術品を説明してもらえそうな企画を利用して、理解を深めるのが効果的だった。

ホームステイ先のタミと話しているときに、「勉強するのは日本がいいが、住むのはコロンビアがいい。」という話が出た。気候が良く、街や人々の雰囲気が明るいコロンビアに住みたいと思うのは納得できるが、表現力や自己肯定感、探究心を押し殺すような日本の教育に常日頃から不満を抱いている私にとっては、とても以外な言葉だった。聞いてみると、私立でバイリンガルスクールであるタミの学校でさえ、生徒の統率がとれていないらしい。本鈴がなり教師が教室に入ってきて、騒いだままであったり、授業中に先生の発言をからかったりということがあらしい。その状況と比べると、学級崩壊のあるクラスを除けば、日本では先生がある程度制御できており、団体での教育が可能になっているということなのであろう。この視点には、始めて気付くことができた。しかし、学生の自己統率力があれば、先生が制御する必要はないとも同時に思う。

カリはサルサの聖地と言われるとおり、若者から大人までみんなが楽しんでいた。重要なコミュニケーションの手段とも見て取れた。

もともと先住民は人口の1%ほどであるということは知っていたが、実際に先住民民族衣装を着ている人を見たのはアラメラ市場での1回だけだった。日本で実際に着物を着て街を歩いている人を見るくらいの頻度かもしれない。お土産ものになっている先住民民族のデザインは、非常に多様で美しかった。様々な文明の伝統が受け継がれてきた結果なのだと思う。日本の着物やそのほか伝統工芸品のデザインも調べてみたいと思った。

カリマ湖で意図せず RISK という、世界地図上で領地を奪い世界統一を目指すゲームを経験した。今まで、戦争をする意味がわからないと思っていたが、自分の身を守るために、戦うという手段しか示されていない状況では、戦争を実施せざるをえない領主の気持ちが少しだけわかった。

あるとき、日系人の方が健康の観点から菜食を勧める映画 “Game Changer” を見て、ベジタリアア

ンになったという話を聞いて、コロンビアでもその概念は一部の人には受け入れられているのだと思った。

- 日本とコロンビア、福岡とカリの違い、似ているところ

コロンビアでは、特にお金持ちというわけでもなくメイドを雇うのが普通である。スペイン統治時代の名残なのか、それとも、人々が自分の余暇を増やして人生を楽しもうという姿勢の表れなのか、自分にとっては面白い文化であると感じた。

乗馬では、特に説明がなく、暗闇の中、道路を横切り川を越え茂みを超える2時間のツアーがスタートした。誓約書を書いていたとはいえ、また、多くのコロンビアの人が乗馬に慣れているのかもしれないが、日本だと全体で説明や練習がありそうなところを、飛ばしていきなり実践に入るのが面白いと思った。

町がダイナミックだった。まだ、というべきか、高層ビルはそれほど多くなく、街全体に木が茂っており、どこに目を向けても緑がある。日本のように規則正しく切りそろえられたり、一つの品種に統一されているわけではなく、多種多様な植物が自由気ままに生えているといった印象で、非常に好みであった。街中の壁には緻密な壁絵が数えきれないほど描かれていた。運転も非常に自由であった。交通ルールも日本とは異なり、混雑を避けるために車のナンバープレートに応じて走れる日と走れない日があるとのことであった。車は高価なものらしく、メキシコと似てバス専用レーンがあるほか、郊外からの通勤者のための小型の乗り合いバス、バイク版のタクシーもあった。

道端にある屋台も日本よりは多いが、タイほど生活に密接したものという印象はなかった。それよりも、信号待ちの車に向けてのお菓子の小売りや車の清掃業が多かったところにメキシコとの共通点を感じた。

- ホームステイ

朝食ぐらいしか会話をする機会はなかったが、食を通して、日常が見られた。タミが日本でホームステイをしていた経験から私たちを受け入れようと思ったということを知り、自分も機会があればぜひ、恩返しできるように、経験を提供したいと思った。

- 将来の目標とこの研修をどのように繋げていきたいか

最終日にディエゴさんが涙ながらに語っていた、これからが女性の時代だということを忘れないように強く生きていきたいと思った。日系の若者がスペイン語、英語、日本語を話し、将来は日本の企業で働きたいという人がいることも聞き、彼らはこれからの日本にとっても、コロンビア日系人協会や県人会にとっても貴重な人材になるのだ、時代の先を走っているのだと感じた。

なぜ福岡県人会があるのか、昔は経営組的な側面が強かったのかもしれないが、これからは日本の実体である伝統・文化を伝えていく場になるのだろうと感じた。同じ派遣者である愛華さんが日舞をしているのを見て、人に紹介できる日本の文化があるのはとても素敵なことだと感じた。自分も何か一つ紹介できるものを育てていきたい。

農業に関しては、未だに疑問が多く残るため、今回出会った人に改めて質問するなどして、より日本の食糧政策と現地農業の繋がりを発見し、少しずつ納得できる解決方法を調べていこうと思う。



- 日系コミュニティ

日系人コミュニティならではの文化があるのが面白かった。ゲートボールは、高齢者の嗜みだと思っていたが、始めてみると、技術的で戦略的で、かつ皆で楽しめてとても楽しかった。天皇誕生日や JICA 主催イベントである FURUSATO などを通して、日本の精神性や先祖の歴史を伝えていくのは、これからの世代を繋げていく上で大事なことであると感じた。そして、自分の家族の根源ももう一度改めて知りたいと思う。

## 日系の方々そして福岡の繋がり

さわむら みか  
澤村 美佳

(dois lagos)



期待以上の勉強や経験になりました。何が1番良かったか?と聞かれると、たくさん楽しかったプログラムや、美味しかったものなどありましたが、私は「人」「人との交流」と答えています。

私の今回の研修の目標は、「移民された方々そして福岡の繋がりになる」でした。コロンビアに行く前は、多くの日系の方と関わって、移住当時の話をしっかり聞いて勉強しようと思っており、また若い方々には日本に興味を持ってもらおうと思っていました。ですが、私の想像以上にご年配の方はもちろん、若い方々まで、日本に興味を持っており、日本のことをよく知っていました。例えば、恥ずかしながら日本にいた私ですら忘れていた天皇の誕生日をお祝いしたり、JICA 主催の写真展覧会「故郷」では、皆が浴衣姿でショーをしていました。また、我々も参加させて頂いたのですが、日系人同士で2・3か月に1回集まって食事会をしていて、そこにはお年寄りから小さなお子さんまでが集まっており、お年寄りは、お互いに近況を日本語で情報交換ができたり、小さい子は、日系人であることを再確認できる素敵なイベントだと感じました。そして、コロンビア福岡県人会のスタッフの方々は、若い世代の方がたくさんおり、ほぼボランティアで、仕事とは別に活動している、と伺いました。彼らには、日本で生まれ育った私以上に日本の誇りがあることを感じる場面が多々あり、非常に驚きました。

また、ご高齢の方々に移住当時の話も伺いました。皆さん遠い異国の地で、いかに大変で、苦勞され、努力されたかが伝わりました。真っ黒に日焼けするほど、朝から夜遅くまで毎日毎日働いた話、泥棒が来て、せっかく作ったものや機械が盗まれる話、また写真結婚（日本にいるときに、写真でコロンビアの日系の人と結婚して、コロンビアに来て初めてその人と会う）で移住して来た話など、今まで聞いたことのないお話を聞いて非常に勉強になりました。その中で1つ心に残ったお話があります。ある日系の方が、農業で人を雇うようになった際に、従業員の方は黒人も多く、字を読み書きできない人や、仕事中にモノを盗むようなルールを守れない人も多かったそうです。そんな中、その日系の方は、彼らに字の書き方・読み方、契約書の書き方、またルールというものを教えたそうです。そして何年か後に、その人に偶然会い、「あなたが色々教えてくれたおかげで、今はきちんとした職も得られ、結婚もでき、家族も得られた。すごく感謝している」と言われハグとキスをされた話には感動しました。ご自身も非常に苦勞された中で、他人に優しくする、というのは中々できないことですし、本当に素晴らしいな、と思いました。また、私は海外が好きなので、旅行したり、住んで生活もしていましたが、日本人というだけで、たくさんの外国人に優しくしてもらいました。その方のお話を聞いたときに、このことを思い出し、日系の方々、国籍関係なく昔から周りに優しくしたから、それが今の日本人のイメージとなり、今の私に返ってきて、私も優しくしてもらえたんだと感じました。そう思うと本当に感謝の気持ちでいっぱいになるのと同時に、私も皆さんのように国籍関係なく、周りの人に優しい人間になろうと思

えました。また、私もいつまでもこういった日本人のイメージを将来に繋げられるような行動をしたいと思いました。

また、彼らからは、いつまでも日系コミュニティを大切にしたいという思い、また日本にいる日本人にももっと自分たちのことを知ってほしいとお話を伺いました。帰国してからも、パラグアイやペルー、ブラジルの日系の友達に、研修はどうだったかと聞かれ、この研修で日系人に少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいと言われました。やはり日系の方々は、自分たちのことを知ってもらいたいのだと感じました。

コロンビアの日系の方々には、本当に感謝しきれない程良くして頂きました。私が、学んだことをしっかり日本にいる人々に伝えることが、恩返しになるのかなと感じています。今は、まず家族や友達に学んだことを話しています。日本人に伝えるのはもちろん、海外の外国人の友達にも日系人の話もしてみようかとも考えています。

また、日系の方々はパスポートの関係で、日本にも戸籍・出生届を提出するそうですが、日本国がそれを紛失したことがあったようです。残念ながら、日本での日系の方に対する意識も減ってきているのではと感じました。今回私たちが多くのことを学べたように、日系の方々から学ぶことはたくさんありますし、私たちはお互いが大切な仲間だと思っています。アメリカは色々な場所にアメリカがあって羨ましい！と幼い頃から思っていたのですが、日本だって日系の方々築き上げた日本が南米や北米等にあり、仲間がいるということに気づき、嬉しくなりました。その関係はいつまでも続いてほしいです。今回派遣された私たちの力は小さなものですが、一人ひとりが自分の経験してきたことを伝えていくことは、非常に大切だと感じています。

日本とコロンビアの違いですが、日本は2000年以上の歴史がありますが、コロンビアはまだ100年ほどの歴史しかないそうです。そのため、やはり日本の方が色々整備されて、綺麗で、安全とは感じました。ただ、カリで老若男女たくさんの日系の方々と交流させて頂きましたが、みなさん本当に優しく、いつも笑顔で明るくて、常に心の余裕があって他人をいたわり、私まで安心して毎日笑顔で過ごせました。私もそうですが、日本にいると日々慌ただしく、自分のことで精一杯で、他人に気を配るなど心の余裕が持てないことが多いのでは、と感じました。勤勉だからこそ、今の日本があるのももちろんですが、忙しい時こそ、いったん深呼吸をし、笑顔で周りを見渡すことが大切なのは、と感じました。

以上、私が学んできたことです。カリで学ばせて頂いたことは、数えきれないほどたくさんありました。帰ってきたこれからは、私たちが学んだことを発信して行く時だと感じています。

# 写真アルバム

2月21日（金）



黄金博物館見学



カリ市内視察



アルケオロジカル博物館見学



2月22日（土）



カリマ滞在



天皇の誕生日祝い式典  
（日系人協会主催）



サルサ体験



2月23日(日)



アルメラ市場訪問



農園で県人会の皆さんと昼食

サトウキビ栽培地見学



2月24日(月)



商工会議所訪問



ハベリアナ大学訪問



コーヒー農園見学



2月25日(火)

パライソ農園見学



Manuelita 工場見学



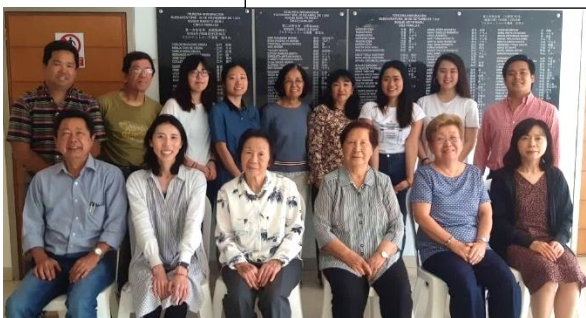
JICA 主催写真展覧会「故郷」参加



2月26日(水)



県人会高齢者の方々との交流



送別会

主催 福岡県

実施 公益財団法人福岡県国際交流センター

発行 令和2年3月